平成28年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」（地域会議）１対１対談　開催結果（主な発言内容）　　平成28年９月13日　現在

	対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1	明和町	対談項目１ 斎宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について	「さいくう平安の杜」の水はけ対策及び維持管理について	昨年10月24日に「さいくう平安の杜」がオープンし、3～4万人の方々に来ていただいています。町では、「歴史的風致維持向上計画」による国土交通省の支援を受けて、約300人収容可能な「いつきのみや地域交流センター」の整備を進めています。「さいくう平安の杜」と「いつきのみや歴史体験館」を一体のものとして、施設整備をしていきたいと考えていますが、10／10の復元建物の正殿前の水はけが悪いため、大雨の際には水溜りができ、来訪者に迷惑をかけ困っています。東からの進入路については、様々な行事があるため、町単独で一部整備を行いましたが、芝生広場も同様な状況であり、抜本的に対策が必要と考えています。また、「いつきのみや地域交流センター」から「さいくう平安の杜」に至る芝生広場の通路部分の水はけが悪いため、車いすの通行に支障があります。町としても「歴史的風致維持向上計画」や日本遺産で国の支援を受けながら周辺の整備は行っていますが、文化財（史跡整備事業地）の中については、国土交通省の事業では対応が困難なため、県のほうで整備いただけるようお願いします。 また、昭和53年に県と協議をし、施設の整備は県、公有地の維持管理も含め管理は町が行うことになっています。また、「さいくう平安の杜」の整備を行う際、昭和53年の約束どおり維持管理は町でという基本路線は崩すことができないという話ももらっています。平安の杜の維持管理が町の試算では年間600万円程度かかり、町として、「いつきのみや地域交流センター」の整備などを行っていく中で、維持管理の経費が負担になってきています。当時に、直接的な維持管理支援はできないが、色々な県事業を行う中での支援策は考えていかなければならないという答えをもらっており、県の財政が非常に厳しい中、今さらではありますが、この機会を通じて、何とか財政支援をお願いします。	維持管理に関する財政的支援については、原則として昭和53年と平成22年の業務分担の合意があり、その合意を変えるような状況にあるとは思っていません。 水はけ対策については財政支援というのではなく、来場者の快適な見学環境を、明和町と一緒に議論し、知恵を一緒になって出していきたいと思っています。
2	明和町		斎宮歴史博物館内のWi-Fi整備について	「歴史的風致維持向上計画」が平成24年6月に国の認定を受け、町では来訪者アップに向けて、トイレ、広場、交流センター、道路、案内看板など、色々な整備を進めています。また、昨年は日本遺産の認定を受け、「日本遺産魅力発信事業」により支援を受け、色々な整備を進める中で、今Wi-Fiの整備を行っています。しかし、斎宮歴史博物館については整備ができないという状況です。まだテストの段階ではありますが、タブレット等を使ったVR（バーチャルリアリティ）による案内の整備等も進めていますので、斎宮歴史博物館内のWi-Fiの整備についてお願いします。 Wi-Fiについて、総務省より、観光だけでなく地震対策、防災対策を含めて、全町的に取り組んでほしいと要請を受けていますので、そういった点も含めよろしくお願いします。	斎宮歴史博物館関係では、今年度、多言語対応の解説パンフレットの作成に取り組んでいます。また、これらの多言語情報を活用して、スマートフォン等のモバイル端末に対応した博物館展示についてのガイドシステムの整備にも取り組んでいます。 斎宮歴史博物館内のWi-Fi整備については、地方創生の加速化交付金による整備を考えていましたが、国に認めてもらえませんでした。 斎宮歴史博物館内でWi-Fi環境を整備するには建物の構造上、多数のアクセスポイントを設ける必要がありますので、整備にかかる経費と維持管理の経費に見合う利用見込みがあるかなどを見極めて対応を考えたいと思います。
3	明和町		中部圏への情報発信の拠点設置について	「歴史的風致維持向上計画」や「日本遺産魅力発信事業」の中で、プロモーションビデオを作成したり、近鉄、三重交通に協力いただき、車両へのラッピングによるPRをしており、今後の展開を考えますと、東京の三重テラス、東京事務所、大阪の関西事務所といった拠点でのPRがあります。しかし、名古屋には三重県の拠点施設が見当たりません。町での観光PRなどを、愛知県、岐阜県等と連携してやろうというときには、イベントを探してやっていかなければならず、県が中心になって各市町を束ねていく名古屋を拠点としたセクションがほしいと思いますので、お考えいただきますようお願いします。	三重県内への中部圏からの観光客は、県内、関西圏に次いで多く、非常に重要なポイントであります。一方、中部圏は、地理的に近く、交通手段もありますので、首都圏・関西圏のように職員常駐型の拠点を設置しなくても情報の収集や発信が可能だと考えています。 中部圏については、県内13市町に加盟いただき、負担金をいただいて、「三重の観光営業拠点事業」により、観光情報の発信、物品の展示などの取組を行っていますので、活用をご検討いただければと思います。

平成28年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」（地域会議）１対１対談　開催結果（主な発言内容）　　平成28年９月13日　現在

	対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4	明和町	対談項目１ 斎宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について	昇龍道を活用した連携について	国土交通省の中部運輸局が、昇龍道というネットワーク化をした観光客誘致をやっていこうということで、三重県も加入されています。平成29年には歴史的文化的資産を活用したまちづくりに取り組む首長がネットワークの共有を図る歴まちサミットを明和町でやりたいと考えており、知事にもご出席いただきたいと思っていますので、昇龍道については県としても力を入れていただきますようお願いします。	昇龍道と歴まちの連携については、歴まちの要素を昇龍道と共有して、ルートにしっかり入っていかなければならないと改めて思っています。 ほかにも食と農の景勝地など、色々なツーリズムがありますので、昇龍道だけでなく、そういったものを含め、一定のルートなどを情報発信していけるようしっかり取り組んでいきたいと思います。 先般、松阪管内では、ドン・キホーテの中村氏と首長で議論をするというような積極的な取組をしてもらっていますので、そういう方のアドバイスも受けながら、うまく情報発信を行っていきたいと思います。
5	明和町	対談項目２ 漁業振興対策（アサリ復活、黒のり養殖調査研究、後継者対策）について		明和町は、大淀（おおよど）地区と、下御糸地区に漁港があり、伊勢湾漁業協同組合に属していますが、近年アサリと黒ノリの漁獲量が落ちてきています。 その結果、組合員数が段々と減り、以前正規の組合員数が全体で300軒くらいあったものが、今年には、アサリ以外の漁業も含めても38軒しかなく、下御糸では6軒しかないという状況に陥っています。 今日言って明日解決できる問題ではありませんが、原因究明や新たな対策など、お考えいただきますようお願いします。	アサリが伊勢湾で激減していることに非常に危機感を持っています。平成28年度から、漁業者や漁協等で構成する「三重県アサリ協議会」と協働しながら、「伊勢湾アサリ復活プロジェクト」に取り組んでいます。この取組の中で、伊勢湾で持続的に安定してアサリが漁獲できるよう、母貝場の整備を進めるほか、アサリの稚貝の移殖を行い、どうすれば安定的に育成できかというマニュアルを作り、横展開できるように取組を行っています。 黒のり養殖については、平成27年度に策定しました「浜の機能再編広域プラン」に基づき、国の事業を活用した競争力強化に資する機器の導入を促進しています。明和町においても、本年度8名の方が黒のり養殖に用いる船外機を導入し、競争力強化を図っています。今後も、これまでも行っています水温、塩分、栄養塩、プランクトン等漁場環境情報の提供や病害診断等により、引き続き、生産を支援していくほか、高水温に強い品種の普及促進や黒のり共同加工施設の導入促進、市場で高い評価を得ていますアサクサノリの安定生産に向けた取組等、知恵を絞りながら取り組みたいと思います。 担い手の確保については、漁協が開設します漁師塾の取組を支援するとともに、色々な講習会を開催させていただいています。講習会の参加者は、国の青年就業準備給付金の支給要件を満たすようになるなど、新規就業がしやすくなる形の制度設計を通じて色々な担い手確保のための取組を実施していきたいと思います。